

札幌市【狸小路・薄野】視察調査

防犯システム委員会 委員長 吉田 啓一
(株式会社 芝通)



防犯システム委員会では、平成17年犯罪対策閣僚会議で示された『安全・安心なまちづくり全国展開プラン』の主旨に則り、人に優しい地域コミュニティの創出に向けての具体的な手法についての調査・研究に取り組んでいる。

平成17～20年度に亘る4ヶ年において全国展開プランに唱われた『住民参加型の地域社会の創出』・『犯罪に強い住宅街の整備』については、「ホームセキュリティガイド」改訂版の発行及びガイドの内容を充実させたWEB版の作成。さらにこれらの内容を総合的に解説したDVD「防犯対策新時代」の制作。また『地域ぐるみで行う子どもの安全確保』については、体力的弱者である学童・高齢者を地域全体で見守る体制を如何に創出すべきかとの観点より、「学童の安全確保を目的とした現地調査及び提案」・「高齢者の安全・安心対策」に取り組み、成果物として報告書並びにDVD「学童の安全確保のための防犯・防災対策」の制作を行っている。懸かる防犯システム委員会としての実施業務の推移より、平成21年度では全国展開プランにある『健全で魅力あふれる繁華街・歓楽街の再生』に関する調査・研究をテーマに定めた。

これに先立ち委員会では平成20年度福岡市中洲において、福岡県警本部・福岡市・中洲町連合会等、防犯活動尽力されている機関・団体の皆様のご協力の下、防犯対策現状の視察・調査を行った。中洲地区全域への防犯カメラ導入後間もないタイミングであったが、犯罪発生件数とりわけ暴行傷害等が導入前に較べ40%以上の大幅減少、対策の効果が現れている事実を確認した。尚、中洲の視察調査において、「中洲地区安全安心まちづくり協議会」同様、薄野（札幌）・国分町（仙台）において活発な防犯活動を展開している団体・組織との連携による「安全・安心な繁華街・歓楽街の再生」をテーマに、平成19年11月【歓楽街サミットin仙台】が3者により開催されている事実を知った。

こうした背景を踏まえ委員会では、平成21年11月15・16日の両日で福岡市中洲に続き、札幌市において「狸小路」を繁華街、「薄野」を歓楽街との位置付けの下、現地の視察・調査を実施した。

狸小路は大通公園の南、東西方向約100m毎に1丁目～7丁目に区分され丁目間の車道を含め総延長約1kmから成っている。狸小路の呼び名は明治政府が「北海道開拓使」を置いた頃にまでさかのぼり、今日まで全国的に名をと

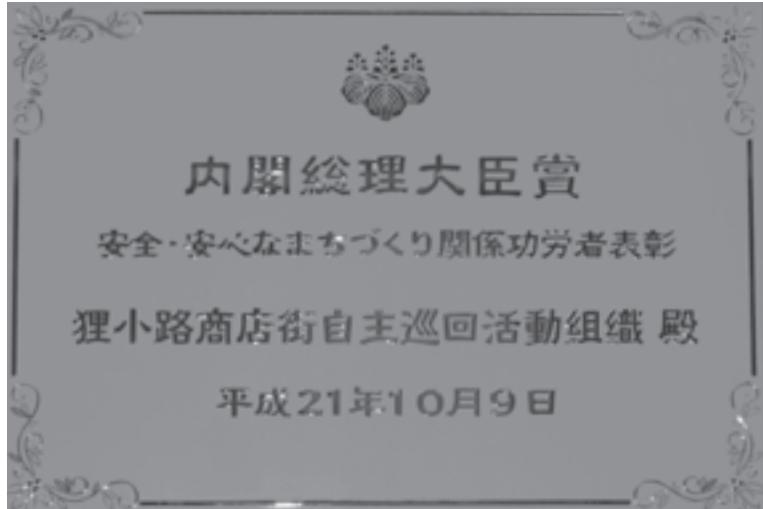


どめる日本有数の繁華街の一つである。狸小路の通り全体は複数の可動式カメラによる監視体制が出来ており、録画画像についてはプライバシー保護の観点より「狸小路商店街振興組合」では行政に先駆け独自の厳格な基準を設け管理・運用を行ってきた経緯がある。また「狸小路都心民間交番」の設置も狸小路を訪れる一般客へのサービス提供と相俟って24時間の防犯体制の強化に大いに寄与している。振興組合の関係者からは、今後全国の繁華街において防犯体制の拡充を図る際の参考となるであろうとの有意義な話を種々伺うことになった。

委員会による視察・調査の直前、平成21年10月9日付けで「狸小路商店街自主巡回活動組織」は安全・安心まちづくり関係功労者表彰として『内閣総理大臣賞』を受賞した。長年に亘る地道な活動が認められた結果であることを改めて実感した次第である。

歓楽街としての薄野における防犯対策の経緯及び実情は狸小路とは些か異なるものであった。日本有数の歓楽街であるススキノでの対策は、犯罪の源の根絶即ち暴力追放運動が出発点となっている。

民間組織「クリーン薄野推進協議会」と札幌中央警察署管轄「薄野特別捜査隊」が核となり官民一体による活動が展開されている。平成17年には「札幌市公衆に著しく迷惑をかける風俗営業等に係る勧誘行為等の防止に関する条例（通称：ススキノ条例）」が施行され、性風俗店などに女性従業員を路上でスカウトする「カラス族」、客引き、卑猥な看板の一掃等、薄野地区の環境浄化に行政面からも本格的の着手、今日では一定の効果をあげるに至っている。札幌市では条例施行以前には薄野の安全・安心を担当する部署がなかったそうである。札幌市は全国の政令指定都市の内で唯一熊が出没する都市で、市役所にある熊の駆除を担当する部署が同じ『暴力源の駆除』との解釈からか薄野の環境浄化も担当することとなったとの逸話もお聞きした。「クリーン薄野推進協議会」関係皆様のご苦労が偲ばれる話である。



追記

なお、今回の現地視察・調査にあたっては北海道警察本部及び札幌中央警察署の関係皆様には極めて有意義なご説明並びにご指導を賜り、改めて御礼申し上げる次第です。

今回の視察・調査の結果は、防犯システム委員会の業務報告書として現在作成作業中であり、全国の防犯関係の機関・団体の皆様には後刻ご参考までに提供させて頂く予定しております。

六ヶ所原子燃料サイクル施設見学会報告記

制度事業部会 部会長 総合防犯設備士委員会 委員長 **武富 正隆**
(オーテック電子株式会社)



1. 見学日 平成21年10月2日（金）

2. 参加者

所属委員会等	参加者
防犯設備士 委員会	尾崎委員 (PSSJ)、河野委員 (ライコム)、瀬澤委員 (高千穂交易)、 平野委員長 (エフビーオートメ)
総合防犯設備士 委員会	齋藤委員 (アート)、島村委員 (セキュリティハウス西東京)、 永井委員 (セキュリティハウス福山)、武富 (オーテック電子)
防犯設備士 養成講習講師	金子講師、谷川講師、寺山講師、半田講師、森山講師、 湯川講師
日防設事務局	岸本制度事業担当部長 (計15名)

3. 六ヶ所原燃サイクル施設の立地環境

六ヶ所原燃サイクル施設は、本州最北端の青森県東北部に位置し、北は下北半島から南は奥入瀬川沿いの3市7町2村で構成されている、むつ小川原地区の中央、太平洋を望む上北郡六ヶ所村にあります。

むつ小川原地区の地勢は、森林に囲まれた緑豊かな自然環境に恵まれており、湖沼群が続いている。地質は、概ね表層2~3mはN値5程度のローム層ですが、その下層は良好な砂質地盤（N値30以上）が続いている。大きな地耐力を有しています。（N値とは、地盤の固さ、強度を表す指標）

気候は、夏は冷涼でしのぎやすく、冬は降雪は多いが風が強く地吹雪となるため積雪は比較的少ない。しかし、夏は海からやませが吹き、気温が15°C以上になる日が少なく、稲作には向かないようです。したがって、主な農産物は大根、人参、ごぼう、ジャガイモ、山芋などの根菜が多く、にんにく、山芋は日本一だそうです。（やませとは、梅雨や初夏の時期にオホーツク海高気圧から北日本や東日本の太平洋側に低温湿潤な空気を送り込む北東風のこと。このような気圧配置が続くと低温や日照不足につながり、冷害が発生し農作物の収穫に大きな打撃を与えるそうです。）



4. 六ヶ所原燃サイクル施設の概要

六ヶ所原燃サイクル施設は、ウラン濃縮事業と低レベル放射性廃棄物埋設事業を展開していた旧日本原燃産業(株)と、再処理事業と高レベル放射性廃棄物貯蔵管理事業を展開する日本原燃サービス(株)が合併して発足した日本原燃(株)（本社：六ヶ所村、代表取締役：川井吉彦社長。以下「原燃」という。）の施設です。

原燃発表資料による施設概要は下表のとおりです。

	再処理工場	高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター	ウラン濃縮工場	低レベル放射性廃棄物埋設センター
建設地點	青森県上北郡六ヶ所村弥栄平地区		青森県上北郡六ヶ所村大石平地区	
施設の規模	最大処理能力 800トン・ウラン/年 使用済燃料貯蔵容量 3,000トン・ウラン	返還廃棄物貯蔵容量 ガラス固化体1,440本 最終的には2,880本	150トンSWU/年で操業開始 最終的には1,500トンSWU/年の規模	1号埋設設備、2号埋設設備合わせて8万立方メートル（200リットルドラム缶約40万本相当） 最終的には約60万立方メートル
工 期	工事開始：平成5年 しゅん工：平成22年（予定）	工事開始：平成4年 操業開始：平成7年	工事開始：昭和63年 操業開始：平成4年	工事開始：平成2年 埋設開始：平成4年
建 設 費	約2兆1,930億円	800億円（※1）	約2,500億円	約1,600億円（※2）

（上記の詳細は、<http://www.jnfl.co.jp/jnfl/establishment.html>をご参照ください。）

5. 今回の見学の趣旨

わが国には経済産業省原子力・安全・保安院所管の原子力発電所、再処理施設、及び文部科学省所管の実験用原子炉、研究用原子炉など、多くの原子力施設が存在し、原子力の平和利用目的で操業されています。

しかし、これら原子力施設で取り扱われている核燃料物質は、盗取や妨害破壊された場合の影響は一国だけにはとどまらない極めて重要な物質であるため、国際規制物資として核不拡散条約（NPT）、核物質防護条約、二国間原子力協力協定、国際原子力機関の核物質防護の勧告などによって規制を受け、国内では原子炉等規正法によって規制を受けています。

このように重要な施設のセキュリティ対策はどのようにになっているのか、関係者ならずとも非常に関心の高いところで、当該施設のセキュリティ対策に重点を置いて見学するのが今回の見学の趣旨でした。制度事業部会に所属される委員及び防犯設備士養成講習講師の先生方の永年の願いを背にして原燃の関係者にご相談したところ、見学許可の快諾を得ましたので待ち望んでいた「六ヶ所原子燃料サイクル施設見学会」が実現することとなりました。

6. 見学内容と制約

今回の見学には原燃関係者のご配慮がいたるところに感じられました。そのひとつが協会事務局が手配したのは小さなマイクロバスでしたが、原燃をお得意様とする三八五バスのご好意でゆったりした観光バスが使用されました。

当初は見学者総勢15名が乗り組み、集合地点の三沢市内から一路六ヶ所原燃サイクル施設を目指しました。

六ヶ所村に着くと丁度お昼直前だったので原燃が建設し、六ヶ所村に寄贈したという日帰り温泉施設「ろっかぽっか」に併設のレストランで腹ごしらえをしました。ちなみに、「ろっかぽっか」は、下北地方のみならず、東北地方でも最大級の日帰り温泉施設だそうです。

以下に今回の施設見学の順序と感想を記します。

1) むつ小川原港

車窓から見学しました。この港は青森県の施設で、青栄丸（低レベル放射性廃棄物運搬船）及び六栄丸（使用済燃料運搬船）の母港だそうです。

海岸部を除き、フェンスが敷設され、その内側にカメラが設置され、不審者の侵入を監視していましたが、警備員の立哨警備のほうが厳重な印象を受けました。

2) 六ヶ所原燃PRセンター

通常はPRセンターの館内スタッフ（女性ガイド）だけで館内施設の案内がされるところ、今回はPRセンターの副館長と原燃の広報担当及び小職の知人でもある核物質防護や警備の専門家による説明を受けました。

ここで、この先、この報告記をご覧の皆様にお断りをしなければなりません。

今回の見学の主たる施設である原燃サイクル施設は、『企業としての商業機密情報、また核物質防護上の情報をはじめ、極めて機密な情報を含んでいるため、カメラ、カメラ付き携帯電話の持込みは厳禁です。どのようなセキュリティ対策が取られているかは各自の目のみで確認してください。また、守秘義務を課せられているのでこの施設のセキュリティに関する者は一生、口外できないことになっています。』という説明が原燃側からなされ、私達の報告記や見聞録にも一定の規制がかけられた格好になりました。当然のことながら残念だったのはカメラ撮影ができなかつたので写真や絵などでのご報告ができないことをあらかじめご了承ください。

PRセンター館内の見学施設を一通り説明を受けながら見て回り、その後、自動車免許証などの本人確認用身分証明書の提示と引き換えに、出入管理ゲート通過用非接触IDカード、及び同じく施設によって異なる出入管理用磁気カードを手渡され、首から掛け、原燃側三人と一緒に私達のバスに乗り込み、原燃サイクル施設へ向かいました。

3) ウラン濃縮工場

原燃最初の施設で、自然界のウラン235の全ウランに対する比率を濃縮設備によって原子炉の燃料として利用できるレベルまで濃縮する工場です。したがって、濃縮設備が設置されていることから工場の周囲はネットフェンスで囲まれ、カメラで常時監視されており厳重なセキュリティ（核物質防護措置）

が施されています。工場への出入口は出入管理ゲートと立哨警備で厳重に管理されています。

4) 低レベル放射性廃棄物埋設センター

屋外施設です。200Lドラム缶入りの低レベル放射性廃棄物を300年間、地下に埋設貯蔵管理することになっています。この埋設センターは、敷地周辺に設置されたカメラで監視されているコンクリート状のフェンスの内側に設置されています。上記のウラン濃縮工場もこのフェンスの内側にあります。

5) 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター

従来、電力会社により英仏二カ国に依頼して使用済燃料を再処理し、リサイクルされたウラン、プルトニウムとともに、再処理の過程で産出された高レベル放射性廃棄物がわが国に返還されています。これら返還高レベル放射性廃棄物（通称、ガラス固化体）をこのセンターで30～50年間、貯蔵管理されます。核物質防護の区分は高くないですが、妨害破壊されては問題なのでセンターの出入管理は厳重に実施されています。

6) 周辺防護区域出入管理建屋

周辺防護区域とは、次に出てくる防護区域を囲むように配置された区域（両区域とも法律用語）で、その境界は二重フェンスが敷設されています。その二重フェンスには侵入を検知するセンサが設置され、また、監視カメラが同じくフェンスの内側に設置されています。この区域の出入口も多くの出入管理ゲートがあり、立哨警備とともに厳重に出入管理されています。この区域の内側には乗ってきたバスは入れませんので原燃のバスに乗り換えて区域内を移動することになります。

7) 防護区域の各建屋群と防護区域に通じる出入管理建屋

核物質防護上重要な施設は防護区域に指定されています。上記周辺防護区域出入管理建屋での出入管理を通過し、強固な障壁で構築された出入管理建屋の出入管理ゲートを通過すると、再処理工場の各建屋に入域することが出来ます。再処理工場のなかには、使用済燃料受入・貯蔵管理施設、再処理施設、中央制御室などがあります。

なお、再処理工場の近傍にMOX燃料工場の建設が計画されています。

私たち見学者は前後にエスコート付きで周辺防護区域内の各施設を見学して回りました。その際は非接触IDカードを提示するだけでしたが、施設で働く従業員はあらかじめ生体認証装置（バイオメトリクス）での事前登録がされ、防護区域への入退域は非接触IDカードとともに、バイオメトリクスによる出入管理が実施されました。

その他、核物質防護上の工夫が各種施されていましたが紙面の都合もあり、割愛させて頂きます。

終わりに、今回の見学会に際してご準備頂いた事務局、ご参加頂いた委員・講師各位は勿論、多くの原燃関係者の方々にご支援、ご協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

また、青森県クリスタルバレイ構想他ネット上の情報もいくつか活用させて頂きました。改めまして関係者各位に御礼申し上げます。